ガラスのヒール

佐谷戸明穂

リクルートスーツを身にまとい、ヒールを履き、とあるオフィス街を闊歩する
このコツコツって音なんだか好きなんです 強くなれた気がするから
昔の弱くて甘ったれた自分と決別できた気がするから
スーツはかっこよくて、どんな不安からも私を守ってくれる

私を見る眼差しが眩しい　私ってそんなにかっこよかったかしら？
でもそれはみせかけ、私の心にはまだまだ子どもの私が住んでいる
昨日、電車の中で足をつついてきた赤ちゃんが、仲間を見つけたかのように
話しかけてきたことを思い出した
私もそのまま電車に揺られたかったな　お母さんの腕の中で眠りにつくように

大人が言う事は矛盾ばかりで辟易してしまうけれど、自分の純粋な気持ちは
大切にしたい
目の前に困っている人がいたら私は助けたい　繊細なものはそっと丁寧に扱
いたい

これから生きていく世の中がこんなに大変なら、あの世に出かけても良いか
な、なんて
私、何がしたかったんだっけ
社会に認められるには、いくらかの犠牲が必要と気づいてから、道が見えな
くなりました
犠牲の上に成り立つものは何でしょうか

シンデレラのように美しい物語の中には入れないなら
私はもう一つの小説の中に生きよう
そう一人つぶやいて飯田橋駅の改札を通過した